

桜（河口恭吾）：二揚

二揚

中	ぼく
工	く
上	が
合	そば
上	に
五	いる
中	よ
工	
六	
六	

工	き
中	み
上	を
工	わ
工	ら
五	わ
五	せ
工	る
六	か
六	ら

六	さ
八	く
九	ら
九	ま
九	う
八	き
九	せ
八	つ
六	か
五	ぞ
六	え

工	き
五	み
上	と
工	あ
五	る
七	い
六	て
工	い
中	こ
工	う

上	ま
	ぶ
四	し
	い
合	あ
	さ
老	は
合	なぜ
上	か
	せ
工	つ

上	な
	く
	て
四	下老
合	りゆう
工	を
	さ
五	が
	す
工	ように
六	

六	き
六	み
七	を
	み
上	つ
工	め
五	て
五	い
五	た

上	な
	み
	だ
四	の
	よ
合	る
	は
老	

上	つ
	き
工	の
	ひ
上	か
	り
	に
四	下老
工	ふ
	る
	え
五	て

工	い
	た
	よ
六	
四	ふ
七	た
八	り
五	で
五	Ah
五	Ah

中	い
工	つ
上	も
合	そば
上	に
五	い
中	いる
工	よ
六	
六	

工	き
中	み
上	を
工	わ
工	ら
五	わ
五	せ
工	る
六	か
六	ら

桜（河口恭吾）：二揚

二揚

		六	や
		八	わ
		九	ら
		九	か
		九	な
		八	か
		九	ぜ
		八	に
		六	ふ
		五	か
		六	れ

		工	き
		五	み
		上	と
		工	あ
		五	る
		七	い
		六	て
		工	い
		中	こ
		工	う

		工	き
		五	み
		上	と
		工	あ
		五	る
		七	い
		六	て
		工	い
		中	こ
		工	う

		四	Ah
			-
		上	Ah
			-
			き
		六	みが
		五	ー
		工	い
		工	る

		四	Ah
			-
		上	Ah
			-
			き
		六	みが
		五	ー
		工	い
		工	る

		上	い
		四	つ
		下老	も
			そ
		六	ば
		五	に
		工	い
		中	る
		工	よ

		合	四
		工	
		四	
		工	
		四	
		合	四
		工	
		四	
		工	
		四	
		工	

一、ぼくが そばにいるよ きみを
わらわせるから さくらまう
きせつかぞえ きみとあるいてい
こう まぶしいあさは なぜか
せつなくて りゆうをさがすよう
に きみをみつめていた なみ
だのよるは つきのひかりに
ふるえていたよ ふたりで A
h Ah h